

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170101618		
法人名	株式会社ハルス		
事業所名	グループホーム ハルスのお家(1F)		
所在地	岐阜県岐阜市御望字天神951番地170		
自己評価作成日	平成22年6月25日	評価結果市町村受理日	平成22年11月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2170101618&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成22年7月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>季節の行事や慣わし、季節のものを見物に行ったり畑などで旬のものを食べていただいたりなど季節を感じられるようにしてます。調理などその方にできることを探してできる限りでやっていただくように努力しています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>利用者の日常生活は、特に決めごとはなく、自然体でゆったり暮らすことが出来るよう配慮されている。サービス計画は、個々の可能性を見つけ、本人・家族の希望を取り入れ、具体的に作成されている。また、経過と見直しを職員全員で行っている。季節を楽しむ花見や花火見物、やなへ食事に出かけるなど外出の機会を多く持ち、餅つき・おせち作り・初詣・節分・ひな祭り・端午の節句など日本に伝わる行事を多く取り入れ、多彩でメリハリある生活支援がされている。自治会に加入し、ホームの職員ミーティングや運営推進会議を近くの公民館を利用して行うなど、近隣との関係も良好で、地域活動や行事に参加し交流を深めている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票(1F)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護理念の頭文字を社名にしており、毎月のミーティングで理念を全員で読み上げている。	理念ヒューマン・アクティブ・ライフ・サポートの頭文字を社名とし、玄関の正面に利用者の直筆で掲げられている。法人全体の理念はあるが、ホーム独自の理念が見当たらない。	地域密着型サービスの意義を踏まえたホーム独自の理念を追加することも検討されたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、回覧板を回したり、スタッフが地域活動(掃除活動、市民運動会、自治会の集会)に参加してしている。	事業所は、自治会に加入し、市民運動会や掃除などの地域活動に参加し、また、隔月に回覧版にホームからの案内・依頼文を入れるなど、地元の理解を得るため、積極的な働きかけを行っている。また、ホームは認知症対応や介護方法など地域への情報発信も実践している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームのお便りに介護保険についての相談などお気軽に立ち寄ってもらえるように記載している。 ホームにボランティア募集のポスターを張り出している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回行い、ホームの状況や行事、評価について報告している。参加者にご意見をいただきサービス向上に活かしている。	運営推進会議は2ヶ月に1度、行政、家族、自治会員4~5名の参加を得て開催している。会議は、ホームから行事報告や予定などが報告され、随時参加者から、質問や意見交換、助言があり、運営に生かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加していただいたり、わからないことがあればすぐに連絡をし解決するようにしている。	管理者は、在籍7年目のベテランで、介護保険制度、利用料の問題、運営に関する助言など市の担当者に気軽に相談ができる良好な関係ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止マニュアルを作成し、ミーティングにて勉強を行い行わないようにしている。センサー等で状況確認している為夜間以外は施錠していない。	身体拘束の弊害について、管理者始め職員が深く理解している。玄関等夜間以外は施錠を行わず、センサーで職員が気づき、無断外出の際は同行するなど配慮している。ベッド柵の2点柵使用、言葉かけの抑制禁止など随所で実践されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングのなどにて学び、理解して業務に活かすように動いている。。		

岐阜県 グループホームはるすのお家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資格試験等で学んだ職員もいる。理解不足の職員もいるので、学ぶ機会を作る		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に説明をしているが、時間がたち尋ねると理解されてない事があり、その都度説明を繰り返している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1度運営推進会議にてそれぞれの意見を聞き運営に反映させている。面会時やお電話をしたときに意見、要望を確認している。	運営推進会議に参加した折や、面会時の機会を活用し、ホームでの様子を知らせることで、本人、家族の要望を確認している。要望は会議にかけ、職員で話し合い運営に生かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングの際、意見を聞く機会を設けている。必要な場合は反映させている。半年に一回面談を行い、聞いている。	管理者は、半年に1回自己評価をもとに面談を行い、個々の意見を聞く機会を設けているが、日頃から気軽に相談しやすい雰囲気づくりも心がけている。職員に行事等の役割を分担することで、責任を移行し職員からも意見が出しやすいよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力を理解し反映されていない。やりがい、向上心を持って働ける対応、環境になっていない。職員として感じることは難しい。現在、キャリアパス導入に向けて内容について検討している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各自の希望、上司の勧めにより講習や研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	以前は法人内の他の事業所と交流し研修を行っていた。		

岐阜県 グループホームはるすのお家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接に計画作成担当とフロアの責任者が行き、その場でご本人やご家族、利用中のサービス関係者に確認している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接に計画作成担当とフロアの責任者が行き、その場で確認しておく。契約時にもお聞きするようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面接に計画作成担当とフロアの責任者が行き、その場でご本人やご家族、利用中のサービス関係者に確認している。ご本人とご家族の思いの相違も受け止めながらプランや日常の介助で修正をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として位置づけ、生活作業の指導を受けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と情報交換をし入居者の可能性を一緒に求めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族以外の方と交流がほとんど無く、ご本人との会話の中から情報を集め、支援につなげている。	外出時に、以前住んでいた懐かしい地域を車で通ったり、買い物も在宅の頃の行きつけのスーパーに出かけるなど、知り合いに出会う機会を作る支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各利用者の個性、長所を把握し支援につなげている。		

岐阜県 グループホームはるすのお家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ケアマネがおこなっている。問い合わせがあればいつでも答えている。見守りし必要時に間に入るなど会話の支援をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりが穏やかに過ごしていただけのように行動や感情などを把握しスタッフ間で確認している。	日常の介護の中で感じ取ったり、聞き取ったりした利用者の思いや意向、面会時等に家族から聞き取った思いや意向は、アセスメントシートに記載し、全職員が共有し拾い上げており、3ヶ月ごとに見直し確認している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	決して無理はせず、その人らしく生活できるように生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録物やスタッフからの意見により把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティングでモニタリングを行い、3ヶ月毎に見直しを行っている。	介護計画は、本人主体の課題と背伸びしない目標、具体的なケア方法で立てられている。日常の支援経過記録を3色に分けて記載し、介護計画に沿った記録も一目で現状が把握できるよう工夫されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務前に必ず、日誌や申し送りに目を通し、特記事項などの把握、確認している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	まず、入居者の訴えに耳を傾け、状況に応じた支援に心がけている。		

岐阜県 グループホームはるすのお家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	こども110ばんに登録し、必要されている事、お礼の子供達の手書きの手紙に喜んでみえる		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本はご家族の受診対応だがご家族の希望に沿い往診対応もしている。	従来のかかりつけ医に家族付き添いで受診を依頼している。その際、ホームから日頃の体調、血圧や体温等を記載したメモを渡して様子を伝えている。家族の都合で受診が不可能な場合は、往診の対応もしてもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職はいないが、異変があった場合は主治医に連絡、指示をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	おこなっている。入院した際は入院先のソーシャルワーカーに連絡している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明をしている。状況に合わせてご家族と話を予定。	入居申込時にホームの構造上の問題や、ホームの方針を十分に説明し理解を得ている。また、入居の際、特別養護老人ホームへの申し込みを確認し、申し込みがなければ、家族に申し込みを依頼している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルは以前ミーティングで勉強したが定期的には行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	説明、話し合いは行っている。年2回火災訓練を行っている。避難方法と避難経路を常に確認できるようにしている。	年2回の火災訓練、避難方法と避難経路の確認は徹底されている。ホームが市の『急傾斜地崩壊危険地域』に指定されているが、災害時の緊急通報が自治会を通しての連絡になっている。	市の危険地域に指定されていることもあり、災害時に、家族や自治会との連携が速やかに行われることが必須である。そのためにも、市からホームへ直接連絡が入るように働きかけられたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の方が今でもプライドを持って生きておられるので常に意識している。基本的なことのためできていないスタッフには指導している。	利用者が常に主体であることを職員が意識し、丁寧な言葉かけから尊厳のある対応が実践されるため、言葉の最後には「です」「ます」を必ず付けるよう統一している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の方にお聞きし、結論を出しやすいように声かけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ゆったりとした時間の流れの中で入居者の方のいこいや行動に合わせた生活の支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	こだわりが以前より少なくなってきた方が多いがプランで服装に関するものもあり、外出時は特に気をつけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニュー決めから調理、盛り付け、味見、台拭きなど食事に関することから意識や楽しみを持ってもらうように心がけている。	利用者ごとの介護計画のなかに、食事作りで出来ることが目標に掲げられている。米をとぐ、野菜の下ごしらえ、台拭き、配膳、下膳など行ってもらい職員から感謝の言葉をかけている。また、ホームの畑で採れた野菜を食したり、梅干しを作ったり、季節を楽しむ取り組みもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は記録し各自に合った量を取っていただいている。途中で必要量を確認し支援している。月一回体重測定を行い、増減を確認している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声かけと必要な介助にしている。薬剤での義歯洗浄される介助も行う。		

岐阜県 グループホームはるすのお家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	訴えのない方は定期的に誘導している。オムツ等使用の方も基本的にはトイレでの排泄で対応している。	トイレでの排泄を基本とし、自立支援と定時誘導を行っている。夜間は、ポータブルトイレやオムツを使用する利用者もいるが、極力オムツの使用を少なくし、経済的な負担軽減にも努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量や食事内容、フルーツやヨーグルトをお出ししたり、腹部マッサージを行い促している。主治医に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日午後が入浴になっており、利用者のペースに合わせて定期的に入れるように常に準備している。	各階に浴室があり、1階にはリフト浴もできるよう準備されている。2階はユニットバスで、手すりを使って介護を受けながら入浴できる。毎日入浴が可能なため、1日の利用は少人数となり、一人ひとりがゆつくり入浴を楽しむことができる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の生活リズムをスタッフが把握しており、その日の入居者のペースに合わせてスタッフが連携し入眠していただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎回の薬の説明書がファイルしてあり目を通して理解するよう努めている。服薬までに3回は確認できるようにし、食後も服薬の確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の楽しみ方が違うことを考慮し、決して無理強いすることがないように心がけている。読み物や歌、塗り絵など個別にて支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出行事や買い出し、喫茶店、外気浴へは行きますが個別に希望の外出は難しくなっている。	天候や体調の良い日には、希望者とドライブや買い物に行くなど、日常的に支援が行われている。年間行事として外出の機会を多く取り入れ、季節を感じる工夫がある。利用者とスタッフが一緒に楽しめるように企画され、外出が有効に活用されている。	

岐阜県 グループホームはるすのお家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	理解はしているが管理ができない為にお預かりしている。過去に利用者間のトラブルに発展しそうなことがあった。入居者の方にはお預かりしていることといつでも出せることをお伝えしたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望に応じ、家族の都合のよい時間に対応させていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温・湿度計を確認し、入居者の方に具合を聞いて空調の管理はしている。不快や混乱になるものは内容に心がけている。	玄関は広く開放感があり、ホーム全体が落ち着いた雰囲気がある。1階の居間からは、自作の畑や庭先の洗濯ものが見え生活感がある。2階の居間は、見晴らしがよく、いずれも明るく気持ちのよい共用スペースで、利用者がゆったりとした時間を過ごせるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングに畳があり使えるようにはなっている。一人ひとりに合わせて居室で休んでもらうようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に持ち込んでいただいてよい事をお伝えしている。実際にタンスなど持ち込んでいる。	利用者の居室はそれぞれの馴染みの家具が持ち込まれ、好みの写真や花が飾られている。自室は広く、落ち着いて生活出来る空間が用意されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できることを行ってもらえるようにプランに上げ、記録している。段差や距離が長い場合は必ず手すりを設置してある。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170101618		
法人名	株式会社ハルス		
事業所名	グループホーム ハルスのお家(2F)		
所在地	岐阜県岐阜市御望字天神951番地170		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日			

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票(2F)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の理解している。実践できるよう常にどりよくしている。ミーティングの際に皆で読み上げている。施設内にいつでも目につくよう張ってある。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所で顔を合わせた時は挨拶をしている。行事への参加の声かけ、散歩等で会話をしている。地域のいろいろな行事に参加している。回覧板を回してもらっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事には声をかけている。運営推進会議において管理者とケアマネが地域の人々の質問にわかるように答えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開いている。話し合った事をサービスの向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には参加してもらっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠なし。センサー使用している。身体拘束の内容と弊害を認識している。ファイルを配布されている。取り組んでいる。勉強会を開いたが理解できていない職員もいるので理解を深めるため勉強会を開いていく		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待はないが、万が一あったら職員同士防止するよう心構えはできている。		

岐阜県 グループホームはるすのお家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学んだ。必要な利用者は活用されている。必要だと思われる方には説明をしている。理解不足の職員もいるので、学ぶ機会を作る		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に説明をしているが、時間がたち尋ねると理解されてない事があり、その都度説明を繰り返している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1度運営推進会議にてそれぞれの意見を聞き運営に反映させている。意見、要望はいつでも受け付けている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングの際、意見を聞く機会を設けている。必要な場合は反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現在、キャリアパス導入に向けて内容について検討している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格所得の際は勤務調整をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	取り組んでいないと思う		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	訴えられた事には耳を傾け安心していただくようお願いしている。前の施設の担当者、ご家族、ケアマネから詳しく話を聞き、良い関係作りの準備をしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	つとめている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	前の施設担当者やご家族に聞いている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯の干し方、畳み方等教えていただいている。味見をしていただいている。暮らしを共にし、喜怒哀楽を一緒に受け止める事により安心感が生まれると思う。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	帰宅願望のある方には家族の協力を得て帰宅している。ケアプランにご家族の願いも取り組んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	行っていない。なじみの場所に出かける機会を増やしたい		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係を把握して入居者同士が気まずくならないよう努めている。入居者同士会話されている時は気にかけてんかになりそうな雰囲気には会話に入るようにしている		

岐阜県 グループホームはるすのお家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ケアマネがおこなっている。問い合わせがあればいつでも答えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	努力している。把握に努めている。できるだけご本人に決めていただいている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活習慣をお聞きしたりアセスメントを見て把握するよう努力している。家族に生活歴等聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録、申し送り等で把握している。職員間で話し合っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月毎に見直しを行っている。月1のミーティングで意見出して話しあって介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	スタッフ間で話し合ったり記録している。おこなっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	支援するのにプランのみで収まるのではなく、その時々生まれるニーズに対応している。		

岐阜県 グループホームはるすのお家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	こども110ばんに登録し、必要されている事、お礼の子供達の手書きの手紙に喜んでみえる		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受けていただいている。ご家族対応の場合は身体の様子など、その都度紙面にして渡している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職はいないが、異変があった場合は主治医に連絡、指示をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	おこなっている。入院した際は入院先のケアワーカーに連絡している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族と話をし始めた。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置のファイルを持っているが把握できていない。定期的な訓練は行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は行っている。入居者の避難訓練方法、順番を意識している。災害に備え、食料品等準備している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	努力しているが対応が十分でない事がある。常に心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	顔をじっとみられ何か訴えられたい時は側に行きお聞きしている。表情や行動で受け止める事のできるよう努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望を言われる方を優先してしまう。口に出されない方は何もできないこともある。自己主張の強い人が優先になってしまう。言えない方にはこちらから声をかけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節にあった服を着ていただいている。衣類が少ない方も工夫している。好みに合わせたおしゃれを支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	1品でも好みの料理を献立に取り入れている。お好きな物をお聞きしているがすべてには応じられないが、バランスを考えて準備している。材料切り、食器洗いを一緒にしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量、水分量は記録し各自に合った量を取っていただいている。一人一人のカロリー一過不足、水分摂取量を把握し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後はできていないが朝、夕は必ずしている。昼食後も習慣にできるよう努力したい。		

岐阜県 グループホームはるすのお家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人のパターンを把握してトイレ誘導している		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の物、ヨーグルトを多く取っていただいている。階段昇降等運動していただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	2、3日に1回入っている。時には職員の都合に合わせてしまうときがある。順番ではいっている。風呂開く日を週5日から毎日に変更。以前より入りやすい環境になったと思う。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節に合わせて布団等調整している。室温、湿度を気にかけて整備している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎回の処方箋がファイルしてあり目を通して理解するよう努めている。個々の薬の服用方法も考え支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の楽しみごとをお聞きしたり、アセスメントで確認して楽しんでいただいている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望される方には出かけていただいているが口に出されない方も外出していただくようにしている。できるだけ満遍なく外出できるようにしている		

岐阜県 グループホームはるすのお家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	力に応じてお金を所持、買い物に同行している。ほしい物、必要な物があるときは買い物に行き、力に応じて支払いを支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話をしたり、手紙のやりとりを試みえる。一緒にポストへ投函しに行く。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテン等で刺激を避けている。季節により室内の温度の整備をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル2つに分け、気のあった方と過ごしていただいている。自由に行動されるので居場所の把握につとめている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使われていた家具等居室で使っている。家族の写真を壁に貼ってみえる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差がありバリアフリーではないが、手すりを使って生活している。それぞれにあった対応、見守りをしている。		